マイクロピペット 汚染除去　手順書

	手順内容	注意点・備考	水溶液、ハ゛ッファ類	酸	アルカリ	感染の恐れがある試料	細胞培養液	有機溶媒	タンパク質	核酸	DNase、RNase	ウィルス、マイコプラズマ、バクテリア、カビ
1	使用済みのピペットを分解する（ノズル、ピストン、シャフトなど）	分解できる範囲で無理なく行う	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	各部品を70%エタノールまたは中性洗剤で洗浄する	洗浄後はしっかりすすぐ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	必要に応じて超音波洗浄機を使用する（特に内部の汚染が疑われる場合）	プラスチック部品は熱や強振動に注意	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
4	必要に応じて3%(W/V)以上の次亜塩素酸ナトリウムに15分以上浸ける	DNAが対象、RNAは不要								○		
5	必要に応じて3%過酸化水素水に10分間浸ける	Rnaseが対象									○	
6	すべての部品を滅菌水または蒸留水で再度すすぐ	洗剤成分が残らないように	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	乾燥機または清潔な場所で自然乾燥させる	完全に乾燥させること（残水に注意）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	紫外線（UV）照射またはオートクレーブ滅菌（耐熱性がある場合）を行う	耐熱性を確認してから実施				○	○				○	○
9	組み立て前に、ピストン部などに潤滑剤（メーカー指定のグリース）を少量塗布する	グリースは適量・清潔なツールで塗布	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	ピペットを元通りに組み立てる	パーツを正確に装着する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○